

<特集「否定、形容詞と連体修飾複文」>

メエ語の否定、形容詞と連体修飾複文 Negation, Adjective, and Adnominal Constructions in Mee (Ekari)

青山 和輝¹、黒島 規史²
Kazuki Aoyama, Norifumi Kuroshima

¹ 東京大学大学院 / 東京外国語大学 AA 研共同研究員

Graduate School of the University of Tokyo / Joint Researcher of ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies

² 東京外国語大学非常勤講師 / 東京外国語大学 AA 研共同研究員

Part-time Lecturer, Tokyo University of Foreign Studies / Joint Researcher of ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies

要旨: 本稿では、本号の特集にしたがってメエ語の否定、形容詞と連体修飾複文について概観する。メエ語のデータを提示したうえで、各例文に対して解説を加える。

Abstract: This article overviews negation, adjective, and adnominal constructions in Mee (Ekari) based on the questionnaire on the special topic of this volume. We present examples of the Mee language and give an explanation for each example sentence.

キーワード: メエ語、否定、形容詞、連体修飾複文

Keywords : Mee (Ekari), negation, adjective, adnominal construction

1. はじめに

本稿では特集「否定、形容詞と連体修飾複文」のアンケートに沿ってメエ語（バプア諸語トランスニューギニア系）の例文を提示し、各例文に対して適宜補足説明を加える。

本稿のデータは、アンケートの例文を筆者らがメエ語に翻訳したうえで、コンサルタントの方の確認と修正を経たものである。ただし、(7) から (9) に関しては筆者らでは対応するメエ語の表現がわからなかったため、コンサルタントの方に一からメエ語に翻訳していただいた。

コンサルタントはメエ語 Paniai 方言が母語である Dance Nawipa 氏である。したがって、以下で扱うメエ語は Paniai 方言であるが、単にメエ語と称することにする。

メエ語の基本語順は SOV で、修飾語と被修飾語の語順は NA/AN のどちらもありうる。主語や目的語を示す明確な格標識はなく、主語や目的語と一致を示す接辞が動詞に接続する主要部標示型の言語だと言える。人称接辞を含めた種々の接辞は以下のような順で動詞語幹に接続される。アスペクト、テンス接辞の種類によっては、主語一致接辞は現れない場合もある。

Negative-Dual subject-Benefactive-Object-Verb stem-Aspect/Tense-Subject



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス (CC-BY) 下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deedja>

2. メエ語データ

(1) これは私の本ではない。[名詞述語文／コピュラ文の否定]

<i>Kii</i>	<i>ke</i>	<i>aniya</i>	<i>buukuu</i>	<i>ki</i>	<i>beu.</i>
DEM.SG.M	DET.SG.M	1SG.GEN	book	DET.SG.M	NEG

メエ語の指定文、指正文にコピュラ相当の要素は現れない。名詞述語の否定は、述語に後続する否定小詞 *beu* によって表される。

メエ語では限定詞 *ki* のような、先行研究で名詞句標識と呼ばれている一連の語とその組合せによって情報構造が複雑に管理されている。例 (1) の限定詞 *ki*¹ はちょうど日本語の「で『は』ない」のように対比関係を示していると考えられる。

(2) この部屋には椅子がない。[存在文の否定]

<i>Kou</i>	<i>owaa</i>	<i>kugu</i>	<i>duba</i>	<i>kouya</i>	<i>ko</i>	<i>kursi</i>	<i>ko</i>	<i>beu</i>	<i>top-a.</i>
DEM.SG.F	house	room	in	there	DET.SG.F	chair	DET.SG.F	NEG	EXIST-3SG.F.S

メエ語は存在述語 *top-*「ある／いる」を有し、存在文と所在文はこの存在述語を随意的に伴う。存在述語 *top-* は動詞 *tou*「とどまる」の中過去形 *-p-* に由来するが²、否定のふるまいが通常の動詞とは異なるため、本稿では *top-* を動詞とは異なる範疇の存在述語「ある／いる」と見なす。

通常の動詞は後述の通り、否定接頭辞 *te-* あるいは否定小詞 *beu* の後置により否定されるが、*top-* による存在文はそのどちらでもなく、例 (2) の通り *beu* を *top-* に前置する。これは例 (17c) の *beu yuwa* と並行的に捉えられるようにも思われるが、*beu top-* を一塊の非存在述語「ない／いない」と見なすべきか、それとも *top-* が随意的であることを重視して全く別の処理方法を採用するかは今後の課題となる。

(3) この部屋には一つも椅子がない。[全部否定・モノ]

<i>Kou</i>	<i>owaa</i>	<i>kugu</i>	<i>duba</i>	<i>ko</i>	<i>kursi</i>	<i>ena</i>	<i>ma</i>	<i>beu</i>	<i>top-a.</i>
DEM.SG.F	house	room	in	DET.SG.F	chair	one	also	NEG	EXIST-3SG.F.S

(4) その部屋には誰もいない。[全部否定・ヒト]

a.	<i>Kou</i>	<i>owaa</i>	<i>kugu</i>	<i>duba</i>	<i>ko</i>	<i>mee</i>	<i>beu</i>	<i>top-ai.</i>
	DEM.SG.F	house	room	in	DET.SG.F	person	NEG	EXIST-3PL.S
b.	<i>Kou</i>	<i>owaa</i>	<i>kugu</i>	<i>duba</i>	<i>ko</i>	<i>mee</i>	<i>ma</i>	<i>beu.</i>
	DEM.SG.F	house	room	in	DET.SG.F	person	also	NEG

モノの全部否定はちょうど日本語の「一つもない」に対応する形式が用いられる（メエ語では数詞は基本的に後置修飾かつ遊離を許す）。ヒトの全部否定は例 (4) の通り名詞 *mee*「人」が限定詞なしで用いられ、疑問詞 *meimee*「誰」は用いない。例 (4ab) はいずれもコンサルタントから得た例文ママであり、両者に意味に違いはないが、ここからも存在述語 *top-* が随意的であることが分かる³。

¹ 限定詞は指示詞が文法化したものと考えられる。例 (1) に見られる *ke* はおそらく *ki* と同一の機能を持つと接辞で、指示詞 *kii* と組み合わせた場合の異形態と分析される。

² Marquardt et al. (2018) は *-p-* を完了接辞とみて、状態動詞 *tou* と組合せると継続の意味を表すとする。

³ 随意的というのはていどいい逃げの表現であって、どのような場合に省略可能で、どのような場合に不可能なの

(5) その本はこの部屋にない。[所在文の否定]

Kou buukuu kou ko, kou owaa kugu duba beu top-a.
 DEM.SG.F book DEM.SG.F DET.SG.F DEM.SG.F house room in NEG EXIST-3SG.F.S

所在文は存在文とおよそ同じ構造をしている。存在述語 *top-* を用いても良いし、否定の仕方も同一である。語順と名詞句標識の使い方のみによって区別されると考えられる。

(6) この犬は大きくない。[形容詞文の否定]

Kii dodii kii ke ibo (ki) beu.
 DEM.SG.M dog DEM.SG.M DET.SG.M big DET.SG.M NEG

形容詞述語文は名詞文と同様、否定小詞 *beu* で否定される。ただし文構造には不明な点も多く、例 (6) にも分析の余地がある。*beu* は否定的意味の形容詞をつくるのにも用いられるため (privative ; たとえば *dimi-yago* 「賢い」に対して *dimi-beu* 「愚かな」)、*ki* の入らない場合は否定述語 *ibo-beu* “non-big” を含む肯定文と捉えることができるかもしれない、一方 *ki* の入る場合は例 (13, 14) と同様、肯定文を *ki* で名詞化したうえで否定する文否定表現とみなすことができるかもしれない。

(7) この犬はあまり大きくない。[形容詞文の部分否定]

Kii dodii kii ke ibo-opoo beu.
 DEM.SG.M dog DEM.SG.M DET.SG.M big-much NEG

例 (7) で *ibo* 「大きい」に後続する接辞 *-opoo* は元来「太い」を表す形容詞 *epo* であるが、ここでは形容詞の強意要素として用いられ、否定詞と共に用いて形容詞の部分否定「あまり……ない」を表す。

(8) この犬はあの犬より大きい。[比較級]

a. この犬とあの犬を比べると、あの犬が大きい。

Kii-kaa dodii kii ke, kou-kaa dodii ma
 DEM.SG.M-GEN dog DEM.SG.M DET.SG.M DEM.SG.F-GEN dog with
ena dani ti-touyogo ko kou-ka dodii kou ko ibo.
 one similar do-CVB.COND DET.SG.F DEM.SG.F-GEN dog DEM.SG.F DET.SG.F big

b. あの犬は小さいがこの犬は大きい

Kii-kaa dodii kii ke ibo beu kodeya,
 DEM.SG.M-GEN dog DEM.SG.M DET.SG.M big NEG but
kou-kaa dodii kou ko ibo.
 DEM.SG.F-GEN dog DEM.SG.F DET.SG.F big

(9) この犬がその犬たちの中で一番大きい。[最上級]

Kii dodii kii ke kou dodi-idoo duba umina ibo.
 DEM.SG.M dog DEM.SG.M DET.SG.M DEM.PL.F dog-PL in most big

かは現状全く分からない。

形容詞比較級は（分析的にも）存在せず、言語的に比較を行うには例 (8ab) のような迂言的な言い回しを用いるしかない。一方、形容詞最上級は例 (9) のように *umina* を前置することで作られる。*umina* は「多い」を意味する形容詞であるが、この用法では本来の語彙的意味は失われており、たとえば *miyoo* 「小さい」から *umina miyoo* 「最も小さい」を作れることもできる。

(10) 今日彼は来ない。[自動詞文の否定]

- a. 今日彼は来ない（そういうことになっている）

Itaagapi okai ki te-me-ete.
today 3SG DET.SG.M NEG-come-PROG

- b. 今日彼はまだ来ていない。

Itaagapi okai ki mei beu te-ete.
today 3SG DET.SG.M come.INF NEG do-PROG

(11) あ的那个人はその本を持って行かなかった。[他動詞文の否定]

- a. *Okai ki, kou buukuu kou doki-yake uwii beu ti-p-i.*
3SG DET.SG.M DEM.SG.F book DEM.SG.F take-CVB.SEQ go.INF NEG do-MP-3SG.M.S

- b. *Okai ki, kou buukuu kou te-doke-uwii-p-i.*
3SG DET.SG.M DEM.SG.F book DEM.SG.F NEG-take-go-MP-3SG.M.S

動詞文を否定する方法は2種類ある。否定接頭辞 *te-* を動詞語幹と目的語一致接頭辞の前に付加する方法、および否定小詞 *beu* を動詞不定形に後置し軽動詞 *tai* を続ける方法である。動詞の自他により否定方法が変わることはない。この2種類の否定方式は、例 (10) のように現在進行形 *-ete* では明確な意味的差異が出るが、例 (11) のように中過去形 *-p-* では差異が明確でない。一見すると *beu* のほうは文否定のように見えるが、文否定は例 (13) に見られるように別の方法でなされる。

例 (11) で「持って行く」は *dokii* 「持つ」*uwii* 「行く」をつなげた複合的表現であるから、他動詞の否定方法を見る例としては適切ではないかもしれないが、動詞複合の否定について示唆的である。すなわち *dokiyake uwii* と副動詞で「ゆるく」結合する場合には *tedokiyake uwii* とは言わず *dokiyake uwii beu* と言い、一方 *dokeuwii* と「かたく」結合する場合には *tedokeuwii* と接頭辞による否定が用いられる。

(12) 全ての学生が（祭りに）参加しなかった／学生は全員（祭りに）参加しなかった。[数量の全部否定]

- a. *Mahasiswa utoma yuwo te-degi-ta.*
student all festival NEG-participate-IP

- b. *Mahasiswa utoma yuwo degii beu ti-ta.*
student all festival participate NEG do-IP

(13) 全ての学生が（祭りに）参加したわけではない。[数量の部分否定]

Mahasiswa utoma yuwo degi-ta ko beu.
student all festival participate-IP DET.SG.F NEG

(14) (私は買わなかった。しかし、決して) 値段が高いというわけではない。[文の否定]

(Ani ki edai beu kodeya) adekaa ko ibo te-ete ko beu.
1SG DET.SG.M buy.INF NEG but price DET.SG.F big do-PROG DET.SG.F NEG

例 (12ab) は意味的に同義である; 2 種類の否定方法では、否定のスコープがどちらも数量詞 *utoma* 「全て」のスコープの内側にある解釈しかない。数量の部分否定は例 (13) のように文否定により、すなわち肯定文「全ての学生が参加した」に限定詞 *ko* をつけて名詞化し、それを否定小詞 *beu* で否定することにより達成される。

例 (14) も同様に文を名詞化して否定する手法を示しているが、ここでは形容詞文 *adekaa ko ibo* 「値段が高い」に動詞 *teete* を補って動詞節としてから否定する点が注目に値する。動詞を補わない例 (6) と比較せよ。

(15) 走るな！ [禁止]

- a. *Tibigi te-tai!* 走らない。
 running NEG-do.INF
- b. *Tibigi ko peu!* 走れない。
 running DET.SG.F bad
- c. *Tibigi ko daa!* 走るのは駄目だ (禁じられている)。
 running DET.SG.F forbidden

(16) 大きな声を出すな！ [他動詞文の禁止]

- a. *Manaa ibo te-podomi-yaawi!*
 voice big NEG-go_out-CAUS.IMP
- b. *Ibo mana-ida te-wegai!*
 big voice-LCLZ NEG-speak.INF

メエ語では不定形を命令に用いることが多い。予防的禁止 (preventive) も制止的禁止 (prohibitive) も変わらず例 (15a) のように *te-* で標示され、禁止特有の否定形式はない。

メエ語では *tibigi* 「走る (こと)」のような動作・状態を表す名詞的要素が多くあり、これらは軽動詞 *tai* を伴うことで屈折するが、この場合 *te-* は基本的に軽動詞に直接つく形になる (コンサルタントによると *?Te tibigi tai!* は非文ではないが奇妙であるという)。また例 (15bc) のような言い方も実質的に禁止表現である。特に *daa* 「禁じられた」はメエ語の否定表現を考えるうえで押さえておくべき語といえる。

動詞の自他は禁止方法に関与しない。例 (16a) は日本語の直訳風だがメエ語としても容認される。もっとも例 (16b) のように自動詞文「大きな声で話すな！」でも同じ意味を伝えられる (*-ida* LCLZ は例 (27) を参照)。

(17) 明日は雨は降らないだろう。 [推量の否定]

- a. *Aweetaa edi te-wei-t-a yuwa.*
 tomorrow rain NEG-fall.INF-FF-3SG.F.S possible
- b. *Aweetaa edi wei beu tai-t-a yuwa.*
 tomorrow rain fall NEG do.INF-FF-3SG.F.S possible
- c. *Aweetaa edi wei-t-a beu yuwa.*
 tomorrow rain fall.INF-FF-3SG.F.S NEG possible

明日起こるであろう出来事を叙述するには遠未来形 *-tag-/t-* が用いられる。推量のモダリティを示す

手段としては、文末詞 *yuwa* 「だろう」が最もよく用いられる。例 (17a) は *te*-、例 (17b) は *beu* による否定文の文末にそれぞれ *yuwa* をつけただけで、*yuwa* を除去しても文として成立する。一方例 (17c) では *yuwa* を削除した...*weita beu*. では文として成立せず、*beu yuwa* を否定推量「～ではないだろう」を表す特別な形式と認めるべきかもしれない (例 (2) の解説も参照のこと)。

(18) 彼に聞こえないように、小さな声で話してくれ。[目的節の否定]

a. 彼に聞こえるように、声を大きくして話してくれ。

a-1. *Kii mee kidi yuwii nee, mana iboo~iboo ti-yake wegai!*
 DEM.SG.M person DEM.SG.M hear.INF OPT voice big~RDP do-CVB.SEQ speak.INF

a-2. *Kii mee kidi yuwe-eta, mana iboo~iboo ti-yake wegai!*
 DEM.SG.M person DEM.SG.M hear-PURP voice big~RDP do-CVB.SEQ speak.INF

b. 彼に聞こえないように、声を小さくして話してくれ。

b-1. **Kii mee kidi te-yuwii nee, mana miyoo~miyoo ti-yake wegai!*
 DEM.SG.M person DEM.SG.M NEG-hear.INF OPT voice small~RDP do-CVB.SEQ speak.INF

b-2. *Kii mee kidi te-yuwe-eta, mana miyoo~miyoo ti-yake wegai!*
 DEM.SG.M person DEM.SG.M NEG-hear-PURP voice small~RDP do-CVB.SEQ speak.INF

メエ語で目的節を作るには、例 (18a-1) のように動詞不定形に小詞 *nee* をつけるか、または例 (18a-2) のように動詞語幹に目的接辞 *-eta* をつけるかの 2 種類があるが、否定と共起するのは後者のみである。ただし目的接辞 *-eta* はデータが乏しく、副動詞接辞と見なすべきかどうか分からない。

しかし小詞 *nee* は否定接頭辞 *te-* と全く共起しないわけではなく (下例 cf.a を参照)、今後様々な節について検証する必要がある。

cf. 彼は私を殺したくない。

a. *Okai ki ani te-nagii nee dimii.*
 3SG DET.SG.M 1SG NEG-1SG.O.kill OPT DESID

b. *Okai ki ani nagii nee dimii ko beu.*
 3SG DET.SG.M 1SG 1SG.O.kill OPT DESID DET.SG.F NEG

(19) 私はあの人を怒らせようと思ってそう言ったんじゃない。[否定のスキープの調節]

Ani ki okai utugu be e-gaa-yake wegai ko beu
 1SG DET.SG.M 3SG head unwilling 3.O-think-CVB.SEQ speak.INF DET.SG.F NEG

自動詞的表現 *utugu be gai* 「怒る」に対して目的語接辞をつけた他動詞的表現 *utugu be egai* 「怒らせる」が用いられている。例 (19) は文否定になっている。上掲「彼は私を殺したくない」の例も参照するに、やや複雑な文では動詞不定形+*beu* は避けられ、*te-* もしくは文否定の方略が用いられるらしい。

(20) 私が昨日買った本はどこ (にある) ? [内の関係の連体修飾節・目的語]

[*Ani geto eda-p-a*] *buukuu kou ko kaiya (top-aa)?*
 1SG yesterday buy-MP-1SG.S book DEM.SG.F DET.SG.F where EXIST-3SG.F.S

メエ語では、人称と時制によって屈折した定形節が主節にも連体修飾節にもなることができる。(20)

であれば中過去 *-p-* が付いた *eda-p-a* 「買った」は、そのまま主節にも現れることができる。主節述語と連体節述語の形態が同様なのは以下 (26) まで同様である。(25) までの例に見るように、メエ語は連体修飾が可能な範囲が広い。

主節の *top-aa* 「ある」の有無は随意的である。主語一致接辞の *-a* は短母音であるが、疑問文のためにここでは長母音になっていると考えられる。メエ語においてはいくつかの条件のもとで短母音が長母音になることがあるが、その条件は未解明である。

(21) その本を持って来た人は誰 (か) ? [内の関係の連体修飾節・主語]

[*Kou buukuu kou ko na-doke me-ta*] *mee ki meimee?*
 DEM.SG.F book DEM.SG.F DET.SG.F 1SG.BEN₂-carry come-IP person DET.SG.M who

(21) においても不定過去 *-ta* が付いた *me-ta* 「来た」は主節にも現れうるが、連体修飾の機能を担っている。

(22) この部屋が私たちの仕事をしている部屋です。[内の関係の連体修飾節・場所]

Kou owaa kugu kou ko [inii kei te-ig-e] owaa kugu.
 DEM.SG.F house room DEM.SG.F DET.SG.F 1PL work do-HAB-1PL.S house room

(23) 足が一本折れたあの椅子はもう捨ててしまった。[内の関係の連体修飾節・所有者]

[*Bado ena tuwa-ta*] *kursi kou emige-teig-a.*
 foot one break-IP chair DEM.SG.F throw_away-CMPL-1SG.S

(24) ドアを叩いている音が聞こえる。[外の関係の連体修飾節]

[*Damo tuguu te-ete*] *manaa yuwi-daa.*
 door knock do-PROG sound hear-SPN

(25) あの人が結婚したという噂は本当 (か) ? [外の関係の連体修飾節]

[*Okai waka buki-ta*] *manaa maakodo mee beu?*
 3SG spouse marry-IP sound true Q NEG

(24), (25) は外の関係の連体修飾であるが、「トイウ」のようなマーカがなくとも、(20) から (23) までの内の関係の連体修飾のように、主節述語がそのまま連体修飾節述語となっている。

肯否疑問文の場合、文末の *mee beu* は *beu* がなくても成立するが、*beu* を付けた (25) に付加疑問のような意味は生じない。(21) に見るように、疑問詞疑問文の場合 *mee (beu)* は現れない。

(26) 私はその人が来た時にご飯を食べていた。[時間節]

Ani ki [okai me-p-i gaa] ko dugi no-otigo.
 1SG DET.SG.M 3SG come-MP-3SG.M.S time DET.SG.F potato eat-PPROG

時間節は *gaa* を用いる。ちなみに「～する前に」と言う場合には、「動詞の不定形 + *beu* (NEG) + *gaa*」で表す。

(27) 私はその人が待っている所に行った。[場所節]

Ani ki [okai na-dou+to-p-i-ida] uwi-ta.
 1SG DET.SG.M 3SG 1SG.O-see+stay-MP-3SG.M.S-LCLZ go-IP

場所節を形成するには、場所化の *-ida* を用いる。*-ida* は他に手段や時を表す用法もある。手段の用法に関しては (16b) を参照されたい。

(28) 私はその人が走っていったのを見た。[補文節・視覚]

- a. *Ani [okai tibigi uwe-etigo] e-doo-ta.*
 1SG 3SG running go-CVB.SIM 3.O-see-IP
- b. *Ani [okai tibigi uwe-ete ko] doo-ta.*
 1SG 3SG running go-PROG DET.SG.F see-IP
- c. *Ani [okai tibigi te-ete] e-dou.*
 1SG 3SG running do-PROG 3.O-see.INF

「見る」のような視覚に関わる動詞を述語とする補文節を形成するには、いくつかの方法がある。一つは (28a) のように副詞節を用いる方法である。*-etigo* は副詞節として「～しながら」という意味も表すが、ここでは補文節となっている。二つ目と三つ目は主節ともなれる定形節を用いる方法である。(28b), (28c) では進行アスペクトの *-ete* が現れているが、これはそのまま主節としても現れることができる。(28b) では述語の限定詞 *ko* を後接させることで名詞化していると考えられる。一方、(28c) は限定詞なしで補文節となっている。この例の他にも、メエ語では主節と副詞節、あるいは副詞節と補文節に連続性が見られる。

(28) では、(28a) と (28c) は主節述語に *e-* 人称接辞が付き、目的語の *okai* (3SG) に一致しているが、(28b) では人称接頭辞はない。よって、(28b) は限定詞で統合された節を目的語に取っているのに対し、(28a) と (28c) は *uwe-etigo* (go-CVB.SIM), *te-ete* (do-PROG) が *okai* (3SG) を修飾し、主節述語は *okai* (3SG) を目的語として取っているために人称接辞が付いているとも分析することができる。メエ語では連体修飾節は被修飾語に先行するが、形容詞などは被修飾語に先行することも後行することもあるため、このような分析も支持されるだろう。ただ、人称接辞の出現条件に関してはまだ調査の余地がある。

(29) 昨日の夜、私は彼らがしゃべっているのを聞いた。[補文節・聴覚]

- a. *Geto wanee ko ani [okei wega-atigo] e-yuwi-ta.*
 yesterday night DET.SG.F 1SG 3PL speak-CVB.SIM 3.O-hear-IP
- b. *Geto wanee ko ani [okei wega-ate ko] yuwi-ta.*
 yesterday night DET.SG.F 1SG 3PL speak-PROG DET.SG.F hear-IP
- c. *Getounu ko ani [okei mana wega-ate] e-yuwai.*
 last_night DET.SG.F 1SG 3PL word speak-PROG 3.O-hear.INF

(29) も (28) と同様に三つの方法がある。主節の人称接辞の現れ方も同様である。

(30) 私はその人が昨日ここに来たことを知っている。[補文節・知識]

Ani ki [okai ki geto me-p-i ko] epi.
 1SG DET.SG.M 3SG DET.SG.M yesterday come-MP-3SG.M.S DET.SG.F know

主節が「知る」など知識に関わる場合、(28b), (29b) のように限定詞 *ko* で統合された節が補文節となる。*epi* (know) は他の動詞のように人称や時制で屈折しない。

(31) (昨日) 彼は彼が今日ここに来たと言った。 / (昨日) 彼は、「私は今日ここに来た」と言った。[補文節・直接発話/間接話法]

- a. *Geto ko okai ki [itaagapi yakai me-eg-i] wega-p-i.*
 yesterday DET.SG.F 3SG DET.SG.M today to_here come-RP-3SG.M.S speak-MP-3SG.M.S
- b. *Geto ko okai ki “ani ki itaagapi yakai me-eg-a”*
 yesterday DET.SG.F 3SG DET.SG.M 1SG DET.SG.M today to_here come-RP-1SG.S
wega-p-i.
 speak-MP-3SG.M.S

メエ語では、(31) に見るように、間接引用、直接引用に関わらず補文節マーカはなく、主節がそのまま補文節となる。

(32) 私はリンゴが (あの) 皿の上にあったのを食べた。[内在節・従主・主目]⁴

- Ani [apel kii pidini wadoo to-og-i na ki] no-p-a.*
 1SG apple DEM.SG.M dish up stay-RP-3SG.M.S EGO DET.SG.M eat-MP-1SG.S

メエ語には主要部内在型関係節を形成する方法が二つ存在する。一つは (32) のように *na ki* で統合された節が主要部内在型関係節となる場合である。*na ki* の *ki* は限定詞であり、*na* は話者のみが知っている対象に付く。例えば、*noogei na ki* (my.friend EGO DET.SG.M) 「(話者のみが知っている) わたしの友達」のようである。もう一つは *na ki* の代わりに指示詞 *kidi* を用いる方法である。(33) では *na ki* と *kidi* のどちらも自然と判断されたが、(32) では *na ki* を *kidi* に置き換えるとやや不自然ということであった。

(33) 私はネコが家に入ってきたのを捕まえた。[内在節・従主・主目]

- a. *Ani [kucing owaa duba yokouyoo ki-ta kidi] yaki-ta.*
 1SG cat house inside entering become-IP DEM.SG.M catch-IP
- b. *Ani [kucing owaa duba yokouyoo ki-ta na ki] e-yaki-ta.*
 1SG cat house inside entering become-IP EGO DET.SG.M 3.O-catch-IP

(32) で述べたように (33a) は指示詞 *kidi* によって、(33b) は *na ki* によって統合された節が主要部内在型関係節となっている。

(32), (33) の主節の人称接辞の有無に関しては、今後さらに調査が必要である。

⁴ 本特集のアンケートでは [内在節・従主・主目] であったが (32) は [内在節・従主・主目] であるため修正した。これまでの調査では、メエ語は [内在節・従主・主目] のパターンも可能なようである。

略号一覧

1	first person	LCLZ	localizer
2	second person	M	masculine
3	third person	MP	middle past tense
BEN ₂	benefactive II	NEG	negation
CAUS	causative	O	object
CMPL	completive	OPT	optative
COND	conditional	Q	interrogative
CVB	converb	PL	plural
DEM	demonstrative	PROG	progressive
DESID	desiderative	PPROG	past progressive
DET	determiner	PURP	purposive
EGO	egophoric	RDP	reduplication
EXIST	existential	RP	recent past tense
F	feminine	S	subject
FF	far future tense	SG	singular
GEN	genitive	SIM	simultaneous
HAB	habitual	SEQ	sequential
INF	infinitive	SPN	spontaneous
IP	indefinite past tense		

参考文献

Marquardt, Christine; Marie-Luise Schwarzer; and Sören Eggert Tebay. 2018. The Perfect in Mee: New evidence for a result state approach. *Proceedings of TripleA5*. <https://ling.auf.net/lingbuzz/004414>, accessed 2019-03-14.

執筆者連絡先: k.aoyama.macho@gmail.com (青山), norifumi.964ma@gmail.com (黒島)

原稿受理: 2019年5月8日